

第3学年社会科学学習指導案

1、単元名

地方自治 震災に向き合う福島 ～双葉町のまちづくりを中心として～

教材：「双葉町における被災の現状と復興への課題」「双葉町内復興拠点基本構想」（双葉町）など

2、単元の目標

(1) 社会科としての目標

- 住民自治を基本とする地方自治の考え方について理解できるようにする。
- 地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成する。

(2) 汎用的スキル

- 地域の課題や問題を把握し解決に向け、できることを考えることができる。(問題解決力)
- 弱者を大切にする考えや全国に先駆けて実行することの苦勞を考えることができる。(批判的思考力)
- 原発事故による帰還困難区域の双葉町のまちづくりの展望を考えることができる。(先を見通す力)

(3) 態度・価値

- 自分が住んでいる地域、震災を乗り越えようとしている被災地のために貢献したいと考えることができる。(愛する力)
- 放射線問題や風評被害について異なる考えをもつ人がいることを理解し、学び合う中で合意形成の難しさや大切さを感じることができる。(他者に対する受容・共感・敬意)
- 前例がない新しい制度や仕組みが受け入れられ、社会に広がり影響を与えていくことの意味を考えることができる。(よりよい社会への意識)
- 身近な地域の話や被災地双葉町の具体的な事例から、生活する人々の思いにふれ自分事として考えることができる。(困難を乗り越える)

3、生徒の実態

中学2年生の地理的分野では、日本の諸地域で東北地方の単元がある。当事者性を大切にして、復興に向けて福島県の抱える課題を人々の営みや姿から学んできた。農業ではあんぼ柿の復活や漁業では試験操業や松川浦の青のり復活などを学び、原発事故の影響で問題になっている放射線の現状とどう向かい合っていくのか、福島県の現状や課題について学んだ。中学3年生の公民的分野では、日常の社会生活や東日本大震災からの復旧・復興と関連付けながら、具体的な事例を通して地方自治を取り上げた。双葉町のまちづくりでは、原発事故により帰還困難区域になるまでの歩みとこれからのまちづくりを学び、地域再生の可能性を考えさせることにした。

4、単元について

①教科から見た特性

地方自治は教科書には出ていない教材が沢山あり魅力的な単元である。社会科の改訂の基本的な考え方の1つである「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画の意識涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」に欠くことができない学習である。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

最初に身近な地域の学習をしたのは、地域への関心を高める他に、被災地の復興を生徒が考える上でのヒントになったりすることを意図とした。今回の双葉町のまちづくりについても、帰還したいかしたくないか、復活は進んでいるのか進んでいないのか、などの意見の相違がみられる。避難指示解除の見通しが立てられない中で生活する双葉町の人々の復興計画と現実との状況との葛藤を生徒に共有させたいと考えた。このような葛藤場面が批判的思考力や先を見通す力、他者に対する受容・共感・敬意やよりよい社会への意識を育むことに有効であると考えた。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全7時間 本時6／7時間）

	主な学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 三鷹市 下水道 日本一	・普及するまでに時間がかかった理由、受益者負担金の賛否、早く下水道を作らなかった理由を考える。	○問題解決力	○身近なテーマの設定 ○解決したい、よりよくしたいという場の設定
第2次 ムーバス	・バスを走らせる方法、バスを走らせてよかったことを考える。	○先を見通す力	○身近なテーマの設定 ○解決したい、よりよくしたいという場の設定
第3次 小平住民 投票	・成立要件が必要か不要か、この住民投票から学ぶべきことは何かを考える。	○批判的思考力	○身近なテーマの設定 ○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定
第4次 2つの事例	・旧沢内村、気仙沼フェニックスパティニングセンターの2つの事例から学んだことは何か考える。	○批判的思考力	○解決したい、よりよくしたいという場の設定 ○他者との学び合いの設定

第5次 原発事故	・避難生活で大変だったことやまちづくりの課題は何か考える。	○問題解決力	○事前知識をもたせる ○多様な視点から考える必要のあるテーマの設定
第6次 まちづくり	・戻りたい町民が少ない理由や双葉町民のために政治に期待することは何かを考える。	○先を見通す力	○解決したい、よりよくしたいという場の設定 ○他者との学び合いの設定
第7次 まとめ	・双葉町役場の方に励ましのメッセージを書く。地方自治を学んで思ったこと、よりよい地域をつくるためにはどうすべきか考える。	○メタ認知力	○解決したい、よりよくしたいという場の設定 ○他者との学び合いの設定

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・双葉町町内復興拠点の基本的な構想を具体的に説明できる。
- ・震災から7年以上が経過し、ふるさとを離れ生活する双葉町の人々の思いを理解する。
- ・帰還をためらう状況や背景、また東電の賠償や中間貯蔵施設建設がまちづくりに与える影響を考える。
- ・双葉町民のために政治に期待することは何かを考える。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される生徒の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	○双葉中学校の3年生が作った双葉カレンダーを見て、制作に込めた思いを確認する。 ・町民に震災前の様子を思い出してほしい。	◇カレンダーに描かれたマリンハウスふたばに着目させ、震災目の町民の夏の思い出と重なることを共有する（他者に対する受容・共感・敬意） ◆中学生ができることに取り組んでいる様子がわかった。（発表）
展開 30分	○町民の帰還意向の調査を見て、戻りたい町民が約13%で少ないのはなぜかを考えて発表する。 ・避難生活が長期化している。 ・新たな生活になじんできた ・放射線の影響が心配 ○双葉町・町内復興拠点の基本的構想を見て、希望を見出せる点に印をつけて発表する。 ・次世代園芸チャレンジ ・再生可能エネルギー ・新市街地 ・復興祈念公園 ・復興インターチェンジ、道路 ・海岸堤防 ○なぜ中間貯蔵施設建設を受け入れざるを得ないか考える。 ・原発に近い場所だから。 ・人が住めないのでは仕方がない。 ・国や県、県内他市町村の要請だから。	◇ジレンマのある問題の提示と意見交換。 グラフの数字を読み取り、戻りたいのに戻れない状況を考えさせる。（帰還意向の調査から問題を発見する。） ◆帰還したい町民が少ない理由、双葉町民の苦悩がわかった。（発表とノート） ◇双葉町内復興拠点基本構想から、先が見えない中でも新しいまちづくりを進める上で大切な復興計画が形になって見える部分に着目させる。（多様な視点からまちづくりの新しい挑戦を考える。） ◆基本的な構想と、町復興の足がかりにしたい町民の思いがわかった。（発表とノート） ◇ジレンマのある問題の提示と意見交換。 帰還したい町民やまちづくりにとって障害となる施設建設受け入れを考える。（多様な視点から双葉町の立場を考える。他者に対する受容・共感・敬意） ◆中間貯蔵施設の受け入れは苦渋の決断であることがわかった。（発表とノート）
結末 15分	○双葉町民のために政治に期待することは何かを考えて発表する。 ・早く構想を具体的な形にする。 ・早く避難指示を解除する。 ・全面除染をする。 ・30年保管の約束をする。 ・原発事故を収束させる。	◇双葉町民に寄り添い、何をどうすればうまくいくのかを考える。（他者に対する受容・共感・敬意、よりよい社会への意識、困難を乗り越える力） ◆復興計画と現実の状況で揺れる双葉町の人々の思いを踏まえて、考えることができる。（発表とノート）

●記録映像 有、1場面（後方から教師、児童の後ろ姿を映したもの）